

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2023 年冬)の結果

公益財団法人 ひまわりベンチャー育成基金
(調査研究部門 千葉経済センター)

当財団では、「2023 年冬のボーナス予想」と「暮らし向き」について、千葉銀行 40 か店の来店客(1,000 人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

調査結果概要

1. ボーナス予想額: 58 万 9,000 円(前年冬比 11,000 円増加、同 1.9%)

今年冬のボーナス予想額は 58 万 9,000 円と、前年冬の受給額(額面金額)を 11,000 円上回った。予想伸び率は「1.9%」と、小幅ながら増加となった。

また、夏の予想も含めてみると、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念された 2020 年夏の調査から 6 回続いて「減少」予想であったが、今年夏の調査から「増加」予想に転じている。

2. 暮らし向きアンケート調査について

暮らし向き(生活全般)については、今後半年間の見通しが「良くなりそう」との回答割合 7.2%が、半年前より「良くなった」とした回答割合 7.6%を 0.4%ポイント下回った。今後「悪くなりそう」との回答割合 26.8%が半年前より「悪くなった」とした回答割合 18.2%を 8.6%ポイント上回る結果となり、今後の生活全般に厳しさを予想させる結果となった。引き続き「変わらない」が 66.0%と過半となったが、賃上げの持続性に関する不透明感や物価高による先行き不安感も重なり、生活全般については慎重な見方が続いているようにみられる。

▽ ボーナスの増減予想は、「増えそう」が 18.2%(前年冬 12.8%)と前年冬比 5.4%ポイント増加。一方、「減りそう」が 10.4%(前年冬 17.6%)と同比 7.2%ポイント減少した。全体としては、「増えそう」が「減りそう」を 7.8%ポイント上回る結果となったが、「変わらない」が 71.4%と多数を占めている。「減りそう」が減少し「増えそう」が増加していることから、一部では持ち直しに向けた動きが出始めたようにみられる。

▽ ボーナスの配分は、1 位「貯蓄・投資」、2 位「教育・教養」、3 位「生活費の補填」で、以下「買い物」、「ローン等の返済」、「旅行・レジャー」、「交際費」の順となった。

▽ 貯蓄・投資の内訳は、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」81.4%、「投信・株式」7.2%、「ゆうちょ貯金」4.4%、「社内預金」4.2%となった。

▽ 貯蓄・投資の目的(複数回答)は、1 位「老後の備え」、2 位「教育資金」、3 位「旅行・レジャー資金」、4 位「不時の備え」、5 位「住宅関連資金」、以下「車の維持管理」、「結婚資金」、「耐久消費財」の順となっている。

▽ 購入希望主要品目(複数回答)では、1 位「婦人服」、2 位「紳士服」、3 位「家具・インテリア」が上位を占めた。既婚・独身を問わず、男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ 1 位に挙げている。

調査結果

1. ボーナスの増減予想

ボーナスの増減予想は、「増えそう」が18.2%（前年冬12.8%）と前年冬比5.4%ポイント増加。一方、「減りそう」が10.4%（前年冬17.6%）と同比7.2%ポイント減少した。全体としては、「増えそう」が「減りそう」を7.8%ポイント上回る結果となったが、「変わらない」が71.4%と多数を占めている。「減りそう」が減少し「増えそう」が増加していることから、一部では持ち直しに向けた動きが出始めたようにみられる。

図表－1 ボーナスの増減予想（対前年比）

（構成比、単位：%）

		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
全 体	21冬	10.1	22.0	67.9
	22冬	12.8	17.6	69.6
	23冬	18.2	10.4	71.4
30歳未満	21冬	25.0	16.7	58.3
	22冬	22.4	16.3	61.2
	23冬	35.4	7.3	57.3
30歳代	21冬	12.1	25.0	64.0
	22冬	18.6	20.0	61.4
	23冬	25.5	11.2	63.3
40歳代	21冬	6.8	18.2	75.0
	22冬	10.4	18.4	71.1
	23冬	18.7	7.7	73.6
50歳以上	21冬	4.7	25.9	69.4
	22冬	7.8	16.1	76.1
	23冬	9.4	13.0	77.6

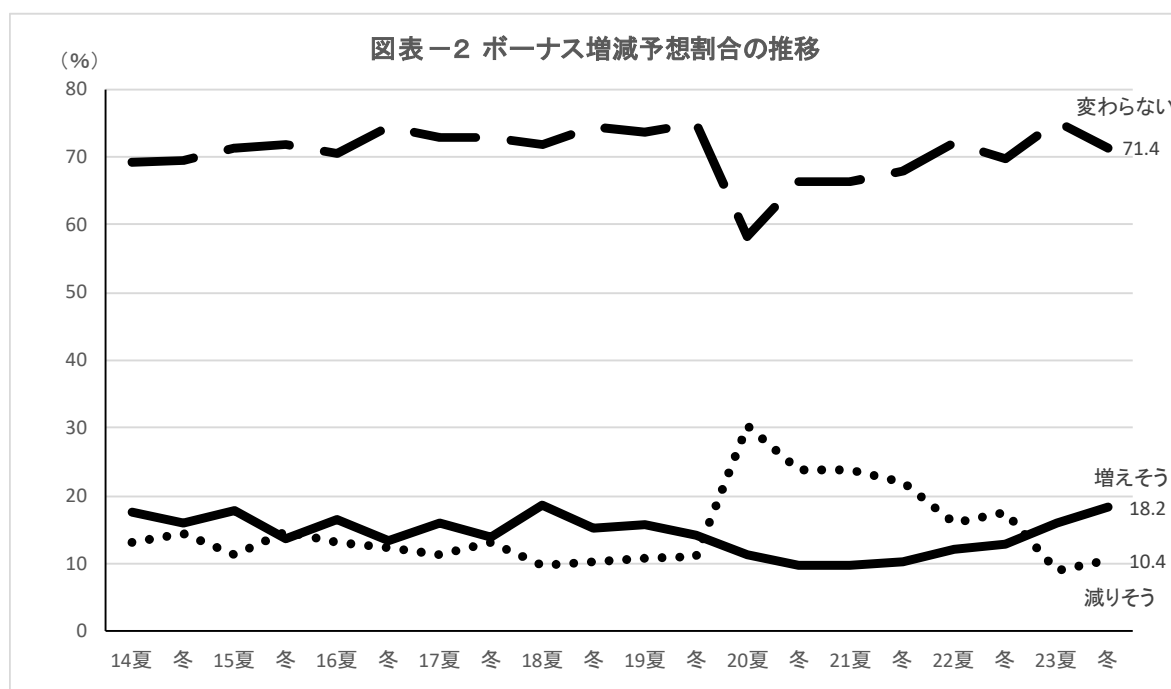
注）不明、無回答を除いた構成比

増減予想を年齢階層別にみると、「増えそう」の割合は、30歳未満から50歳以上の全ての階層で上昇した。（図表-1）。

「増えそう」の割合は30歳未満の35.4%に対し、30歳代25.5%、40歳代で18.7%、50歳以上では9.4%と年代が上がるほど低下傾向にある。

全体としては、改善の兆しは一部にみられるものの、これまでの調査と同様、年齢層が高くなるにつれ、まだまだ厳しい予想となっている。特に50歳以上では、他の年代と異なり、「減りそう」が「増えそう」を3.6%ポイント上回っている。

夏・冬のボーナス増減予想割合の推移は、（図表-2）のとおりである。



2. ボーナスの予想額

今年冬のボーナス予想額は58万9,000円と、前年冬の受給額（額面金額）を11,000円上回った。

予想伸び率は「1.9%」と、小幅ながら増加となった。また、夏の予想も含めてみると、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念された2020年夏の調査から6回続いて「減少」予想であったが、今年夏の調査から「増加」予想に転じている。

また、勤務地別の増減では、都内で7.2%増加に転じるなど、大企業を中心に回復に向けた動きが強いようにみられる。

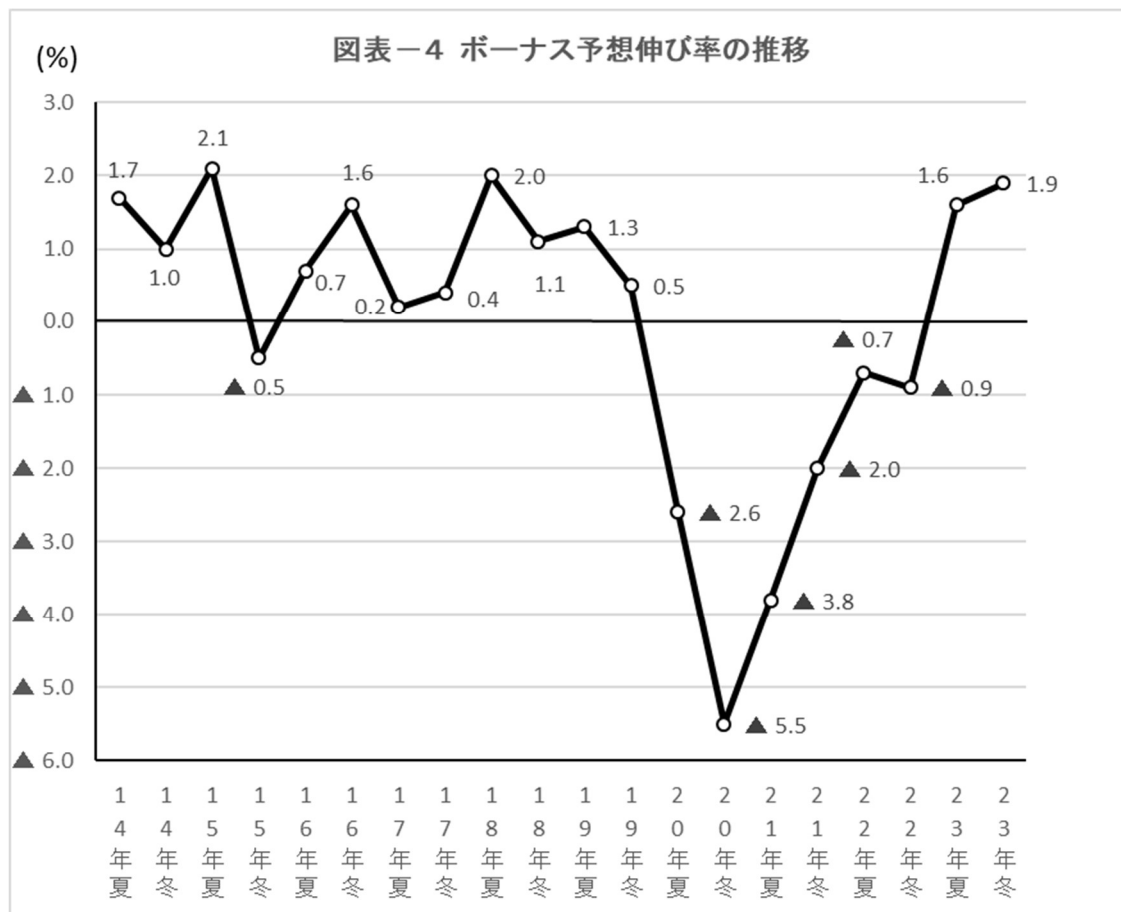
図表－3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予 想 額 (万 円)	予想伸び率 (対前年冬、%)
全 体		58.9	1.9
30歳未満		50.1	12.8
30 歳 代		52.1	4.8
40 歳 代		64.6	0.6
50歳以上		60.9	▲ 0.9
勤務 地別	県 内	52.8	1.7
	都 内	83.9	7.2

予想伸び率を年齢階層別にみると、30歳未満で12.8%と大幅に増加、30歳代が4.8%、40歳代は0.6%となったものの、50歳以上は▲0.9%の減少予想となっている。

また、勤務地別でみると、予想額は都内勤務者の方が県内勤務者より31万1,000円高く、予想増減率については、県内勤務者の1.7%に対して、都内勤務者は7.2%と大幅増加に転じており、大企業を中心に回復に向けた動きが強いようにみられる。（図表－3）。

夏・冬のボーナス予想伸び率の推移は、（図表－4）のとおりである。



3. ボーナスの配分予定

1位「貯蓄・投資」、2位「教育・教養」、3位「生活費の補填」。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄・投資」(48.1%)、2位「教育・教養」(11.2%)、3位「生活費の補填」(8.9%)で、以下「買い物」(8.0%)、「ローン等の返済」(5.7%)、「旅行・レジャー」(5.6%)、「交際費」(0.8%)の順となっている。

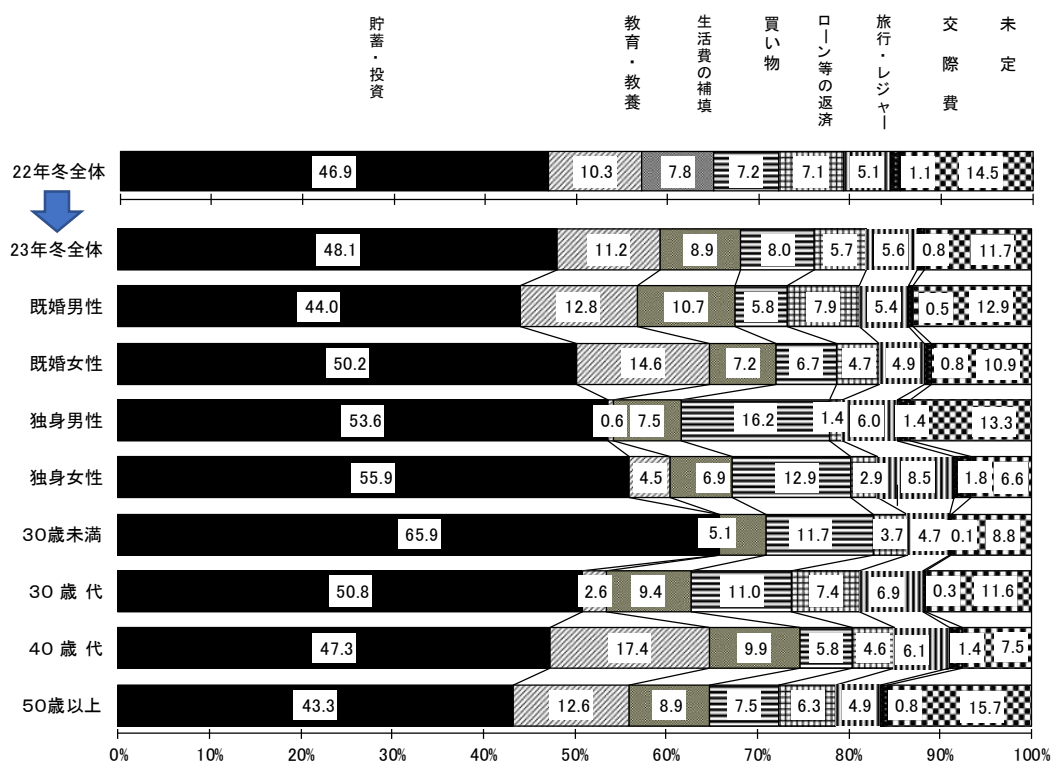
「貯蓄・投資」は、経済情勢にかかわらず常にトップにあり、既婚・独身、男性・女性、年齢階層別を問わず、堅実性を重視している様子が感じられる。既婚・独身別、男性・女性別では、独身女性の割合が最も高く、55.9%となっている。また、年齢階層別では、30歳未満で65.9%と特に高くなっている。

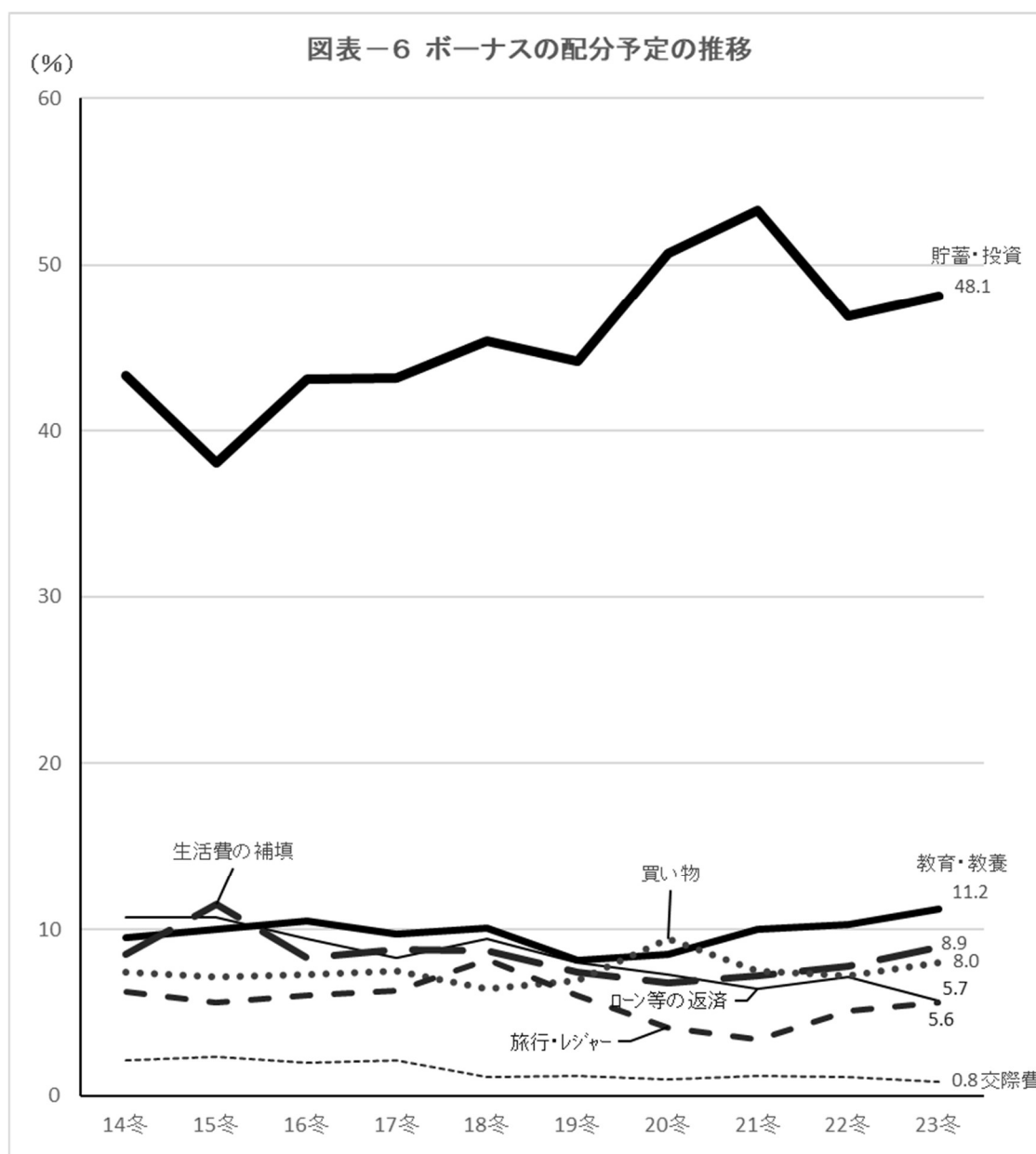
「貯蓄・投資」以外の項目では、独身者は「買い物」、既婚者は「教育・教養費」への配分割合が高い。

また、年齢階層別の特徴として、30歳未満及び30歳代は「買い物」、40歳代、50歳以上は「教育・教養費」、「生活費の補填」への配分割合が高くなっている(図表-5)。

ボーナスの配分予定の推移(冬季のみの時系列推移)は、(図表-6)のとおりである。

図表-5 ボーナスの配分予定





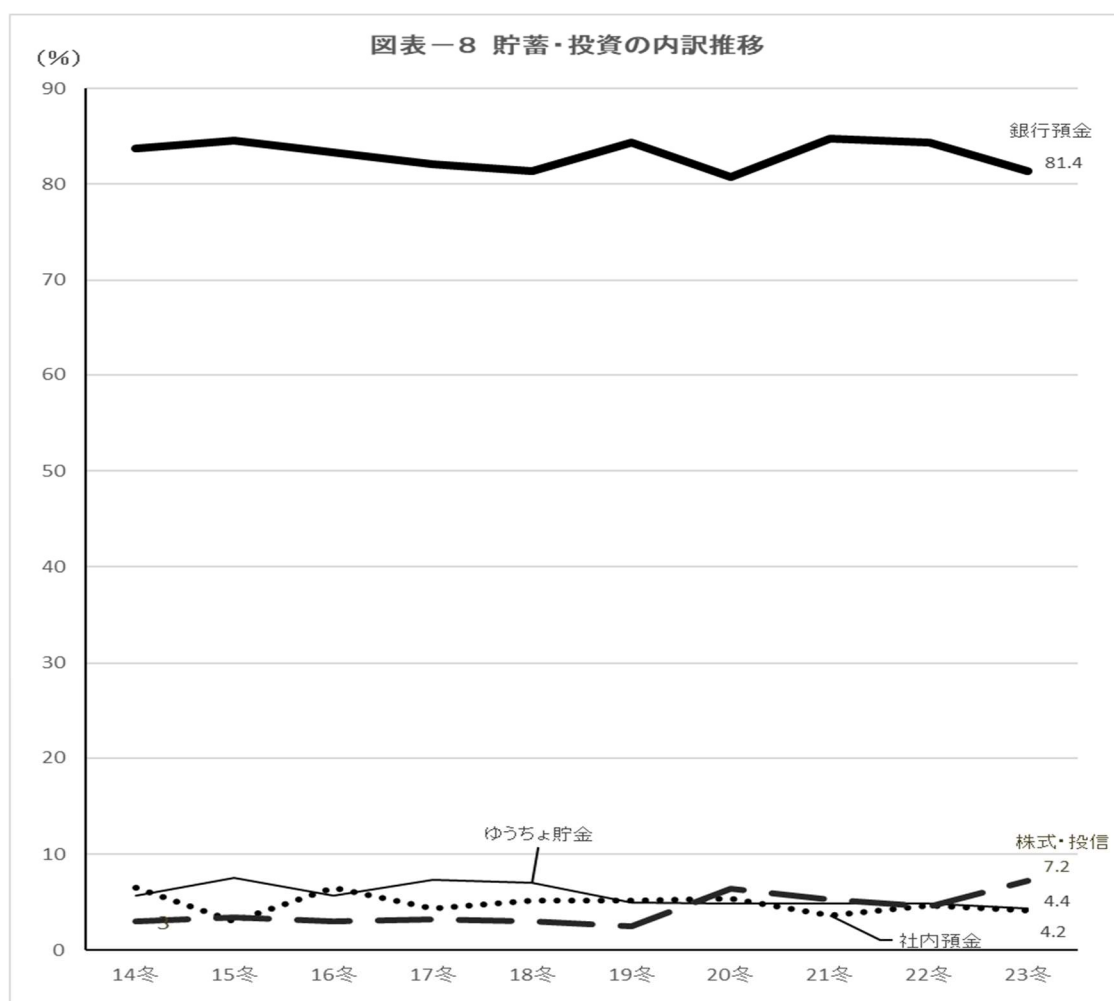
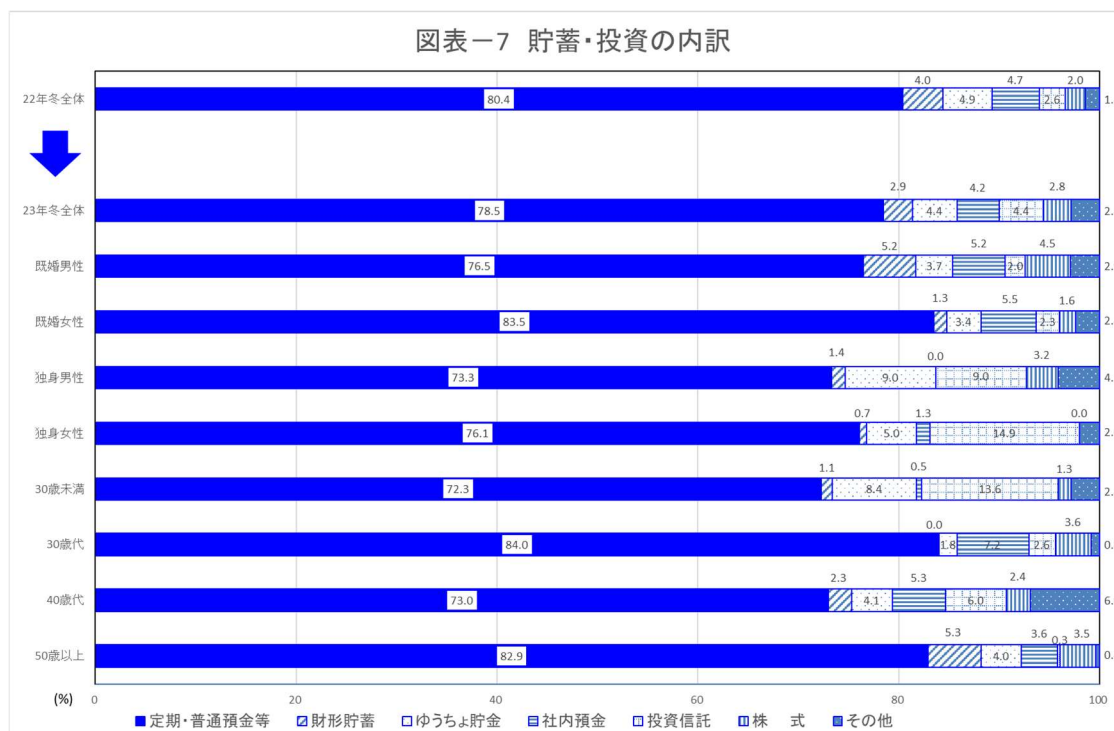
4. 貯蓄・投資の内訳

貯蓄・投資の内訳は、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」81.4%、「投信・株式」7.2%、「ゆうちょ貯金」4.4%、「社内預金」4.2%となった。

貯蓄・投資の内訳をみると、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」が81.4%、「ゆうちょ貯金」4.4%、「社内預金」4.2%の3項目で全体の90.0%（前年冬94.0%）を占めている。低金利のなかでも預貯金の安全性を重視している姿勢が感じられる。（図表-7）。

既婚・独身別、男性・女性及び年齢階層別でも、いずれも「銀行預金（財形貯蓄を含む）」の割合が大半を占めている。「銀行預金（財形貯蓄を含む）」以外では、前年冬に伸びの目立った「投資信託」が4.4%（前年冬2.6%）、「株式」2.8%（前年冬2.0%）と小幅ながら増加となった。

貯蓄・投資の内訳推移（冬季のみの時系列推移）は、（図表-8）のとおりである。



5. 貯蓄・投資の目的

1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー資金」。

貯蓄・投資の目的（複数回答）は、1位「老後の備え」（40.9%）、2位「教育資金」（23.6%）、3位「旅行・レジャー資金」（18.3%）、4位「不時の備え」（14.3%）、5位「住宅関連資金」（13.8%）で、以下「車の維持管理」（8.2%）、「結婚資金」（3.8%）、「耐久消費財」（3.4%）と続いた（図表-9）。

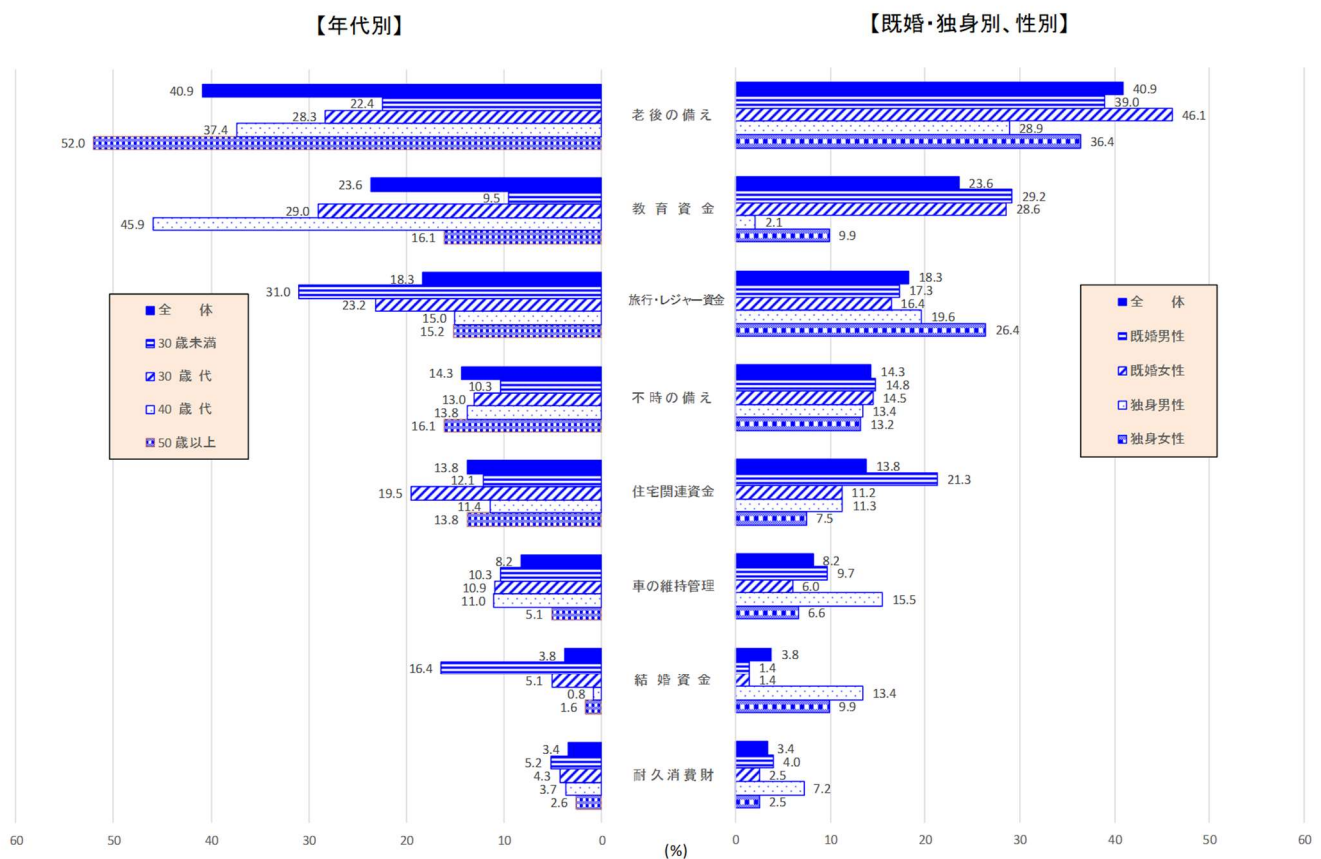
年齢階層別では、30歳未満は「旅行・レジャー資金」（31.0%）、30歳代は「教育資金」（29.0%）、40歳代も「教育資金」（45.9%）、50歳以上は「老後の備え」（52.0%）がそれぞれ最も高い。

既婚・独身別、男性・女性別では、各属性が「老後の備え」をそれぞれトップに挙げている。

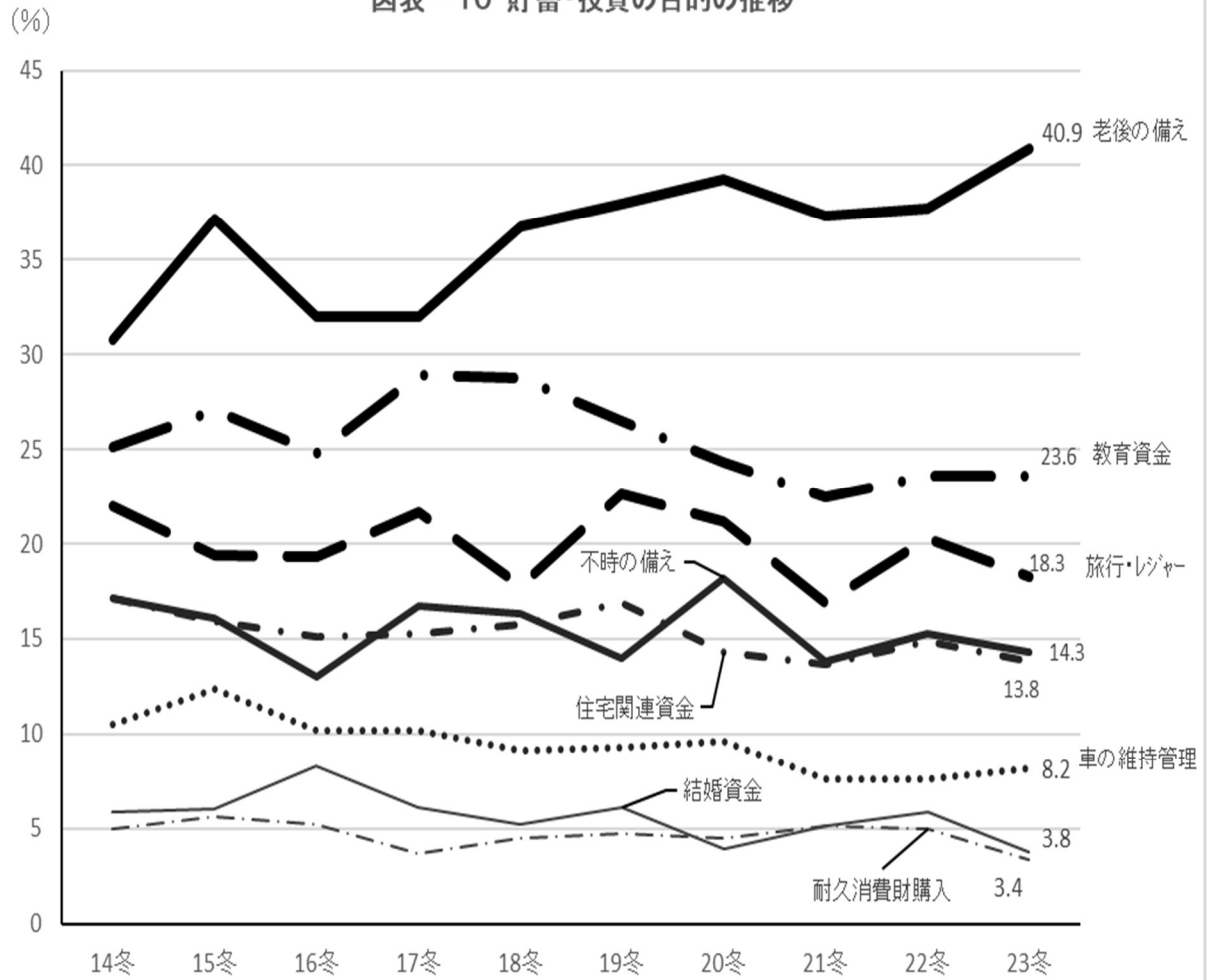
「老後の備え」に関しては、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、過去10年でも「老後の備え」の割合は高い。一方、「旅行・レジャー資金」に関しては、年齢が上がるにつれて割合が低くなる傾向が強く、各年代のライフスタイルの特徴が表れている。

貯蓄・投資の目的の推移（冬季のみの時系列推移）は、（図表-10）のとおりである。

図表-9 貯蓄・投資の目的（複数回答）



図表－10 貯蓄・投資の目的の推移



6. ボーナスで購入したい主要品目

1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」。

ボーナスで買いたい物（複数回答）の上位は、「婦人服」（16.4%）、「紳士服」（11.3%）、「家具・インテリア」（10.6%）、以下「子供服」、「くつ」となった（図表-11）。

図表-11 購入希望主要品目

	全 体		
	21冬	22冬	今年冬
第1位	婦人服	婦人服	婦人服 16.4%
第2位	紳士服	家具・インテリア	紳士服 11.3%
第3位	家具・インテリア	紳士服	家具・インテリア 10.6%
第4位	くつ	子供服	子供服 9.0%
第5位	子供服	くつ	くつ 8.6%
第6位	パソコン	靴・ハンドバック	冷蔵庫 7.0%
第7位	靴・ハンドバック	化粧品	パソコン 6.8%
第8位	化粧品	冷蔵庫	化粧品 6.5%
第9位	冷蔵庫	洗濯機	靴・ハンドバック 5.8%
第10位	乗用車	電話・携帯電話	洗濯機 5.4%

（複数回答、単位：％）

既 婚 男 性		既 婚 女 性	
紳士服	18.6%	婦人服	20.0%
家具・インテリア	12.2%	子供服	13.3%
子供服	9.8%	家具・インテリア	10.4%
婦人服	9.3%	冷蔵庫	10.0%
パソコン	8.7%	暖房器具	7.5%

独 身 男 性		独 身 女 性	
紳士服	30.0%	婦人服	33.3%
くつ	20.0%	化粧品	23.8%
ゲーム機・ソフト	15.7%	靴・ハンドバッグ	20.2%
パソコン周辺機器	14.2%	くつ	15.4%
パソコン	12.8%	家具・インテリア	9.5%

7. 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

（1）収入

半年前との比較で収入が「増えた」との回答割合は19.0%。これに対し、今後半年間の見通しで「増えそう」とした回答割合は11.0%と、8.0%ポイント下回った。一方、「減った」との回答割合は12.4%、今後「減りそう」とした回答割合は14.3%と1.9%ポイント上回る結果となった。

収入については、賃上げの不透明感や景気低迷に対する懸念などから、まだ回復の兆しは見えにくい状況にある。

（2）消費支出

半年前との比較で支出を「増やした」との回答割合は35.1%。これに対し、今後半年間の見通しで「増やす」とした回答割合は17.9%と、17.2%ポイント下回った。一方「減らした」との回答割合は12.2%に対し、今後「減らす」とした回答割合は21.2%と、9.0%ポイント上回る結果となった。

消費支出については、現状、支出が増えていることに加え、収入の先行き不透明感及び物価高から、支出を抑制しようとする慎重な姿勢がみられる。

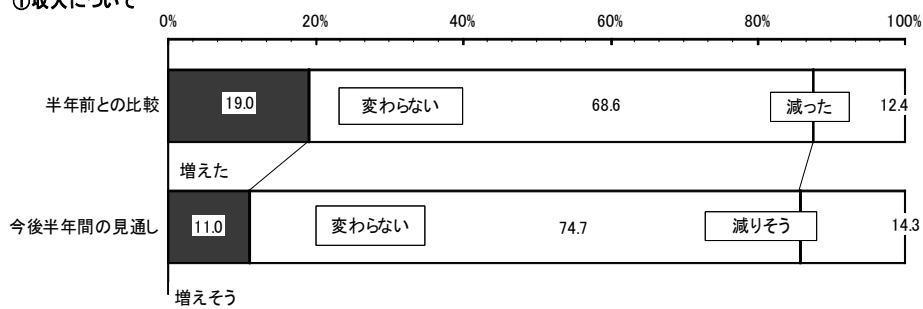
（3）生活全般

暮らし向き（生活全般）については、今後半年間の見通しが「良くなりそう」との回答割合7.2%が、半年前より「良くなった」とした回答割合7.6%を0.4%ポイント下回った。今後「悪くなりそう」との回答割合26.8%が半年前より「悪くなった」とした回答割合18.2%を8.6%ポイント上回る結果となり、今後の生活全般に厳しさを予想させる結果となった。

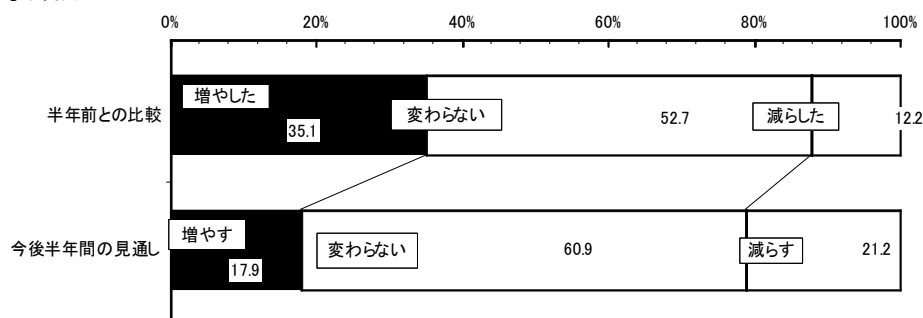
引き続き「変わらない」が66.0%と過半となったが、賃上げの持続性に関する不透明感や物価高による先行き不安感も重なり、生活全般については慎重な見方が続いているようにみられる。（図表-12）。

図表一12 暮らし向きの実感と今後の見通し

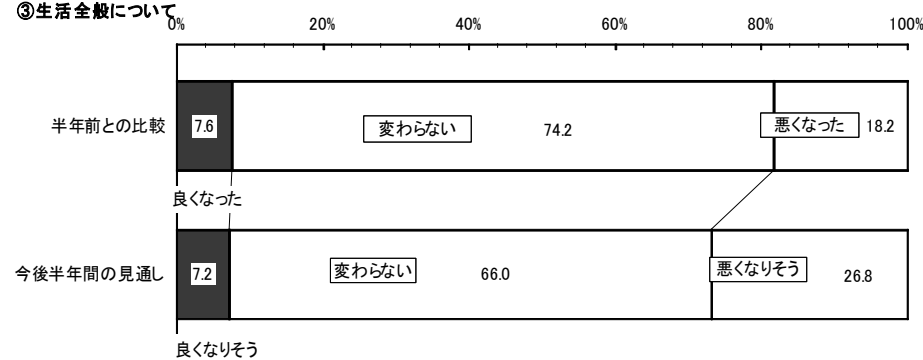
①収入について



②消費支出について



③生活全般について



有効回答者の構成

(人)

	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	9	45	81	142	277
既婚女性	23	44	129	238	434
独身男性	43	21	14	19	97
独身女性	41	28	22	30	121
計	116	138	246	429	929

アンケート調査実施要領

①方 法	千葉銀行への来店客を対象 として、ロビーにて実施
②実 施 日	2023年10月2日～6日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	929人
有効回答率	92.9%